すべての女性が輝く明日のために

JAUW会報

第285号
2025年7月

一般社団法人
大学女性協会

JAPANESE ASSOCIATION OF UNIVERSITY WOMEN

特集　第14回定時会員総会の報告

会長挨拶　新理事紹介（総務、会計）…… 2
2025年度役員および担当委員会・委員長一覧
議事抄録、総会開催報告…… 3
総会公開講演会報告、総会研修旅行報告…… 4
移行法人終了後に向けて…… 5
支部長会2025
第27回大学女性協会守田科学研究奨励賞授賞式… 6
受賞者研究概要…… 7
国連 CSW69 参加報告…… 8
国際奨学生報告会、次世代につなぐ会…… 9
第2回若手女性科学者海外研修助成事業報告 … 10
社会福祉奨学生油田優衣さん NHK 出演
敬愛する丸山庸子元会長を偲んで
支部だより　福井支部・仙台支部…… 11
全国セミナーのご案内…… 12
パトリシア募金寄付者ご芳名、理事会から
国内奨学生募集要項、新入会員

移行法人後の次世代につなぐ

会　長　長谷川瑞穂

新緑の眩しい5月18日（日）に新潟市で第14回定時会員総会が開催されました。前日の17日（土）午後の支部長会には支部長、理事他31名が集い、本部からの説明の後、16支部長が4グループに分かれ意見交換を行いました。翌18日（日）の定時会員総会には72名の対面参加者と297名の議決権行使書による参加者がありました。総会成立確認後、第1号議案、第2号議案が滞りなく可決、承認され、続いて3件の報告がありました。2024年度公益目的支出実施報告では、2028年度の移行法人終了に向けて第1～第4事業はほぼ計画通りに進む見込みであると述べられました。会員の皆様と共に移行法人終了後に向けて考える時期に来ていることを実感致しました。午後の南可乃子氏による「ゆかりの地新潟でドナルド・キーン先生を想う」と題した講演は動画を駆使した分かり易く、興味深いものでした。日本の古典文学を理解し、深く愛したドナルド・キーン氏は、大英図書館で本が発見された古浄瑠璃を柏崎で初演、その後95歳で渡英し里帰り公演をされたと伺い、氏の情熱を思いました。続く本部主催の全国総会では4人の会員による「移行法人終了後に向けて」の発表がありました。宮下会員からは“一般社団法人と公益社団法人のちがい”など、木口会員からは“一般社団法人になった経緯と公益目的支出計画の現状”について、今野会員からは“奨学事業の経緯と今後の展望”について、中村（久）会員からは“JAUWの歴史的経緯や国際会議開催の大切さ”について分かり易く説明して頂きました。4人の登壇者の皆様、有難うございました。以上、会員総会に関しては、対面或いは書面でご参加くださった会員の皆様、素敵な会場を用意し、講演を企画してくださった新潟支部の皆様、バザーを担当してくださった収益事業委員会の皆様に厚くお礼申し上げます。

17時からは皆が楽しみにしていた懇親会が開催されました。新潟の民謡の披露があり、最後の佐渡おけさでは参加者に踊りを教えていただき、皆で踊るという趣向で会は盛り上がりました。中村久瑠美元会長の乾杯の挨拶の後、大変美味な新潟の幸を味わいながら会員同士の交流を深めました。新潟の皆様の暖かさに感謝！翌19日（月）は新潟にはめったにないという快晴に恵まれ、研修旅行を楽しみました。珍しく美味な食、伝統的な文化や技術に触れることができ大変満足いたしました。新設の三条市立大学訪問では地域に密着した実用面と理論を融合した教育方針について学長から説明があり、これからの大学教育について考えさせられました。上記懇親会、研修旅行では、新潟の文化、食、人情に触れ、心豊かにそれぞれの地に戻りました。新潟支部の皆様に改めて深謝申し上げます。

JAUWは女性が参政権を得た翌1946年に設立され、来年は80周年を迎えます。GWIという国際ネットワーク、22支部による国内ネットワークを持つ組織です。奨学金事業は多くの奨学生を輩出し、次世代の研究者などを育ててきました。また、会員が学び、楽しむ企画も多くあります。セミナー、シンポジウム、講演会、勉強会の他、音楽会、観劇会などもあります。また、堅実に会報、報告書を発行し、活動記録を残しています。先輩たちが築いてこられた素晴らしいJAUWを移行法人終了後も良い形で次世代につないでいけるように、皆で頑張れたらと思います。引き続き、ご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。7月の会報発送の際にパトリシア募金のお願いと振込用紙を入れさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

附：最後に私事ですが私個人のHPのQRコードを載せておきますので、ご興味のある方はご覧ください。

新理事2名のご紹介

奨学生に選んで頂いたご縁から始まり、この度、総務理事のお役目を拝命しました。機会を与えて頂いた皆様の期待に応えるべく尽力して参ります。

濱松若葉
総務理事 / 東京支部会員

本年度会計理事を承りました。

一人体制のため不備があるかと思いますがよろしくお願いいたします。

渡部由紀子
会計理事 / 神奈川支部会員

役員および担当委員会・委員長一覧

氏名・担当	担当委員会（委員長）等
長谷川瑞穂・会長	ウェブサイト管理委員会（長谷川瑞穂）
鈴木千鶴子・副会長	企画委員会（鈴木千鶴子）
秋光　正子・副会長	会員委員会（縄田眞紀子）
牧島悠美子・総務	注：役員選考委員会、会員拡大委員会、規定等検討特別委員会、公益目的支出計画に関する特別委員会が理事会の要請に基づき設置される
濱松　若葉・総務	
渡部由紀子・会計	
中山　正子・財務	
片岡　雅子・理事	調査･研究（片岡雅子）、生涯学習（松村和子）
今野美智子・理事	国内奨学（窪田憲子）、社会福祉（遠藤理枝）、科学研究奨励（菅原洋子）、国際奨学（古山みゆき）、海外研修助成（菅原洋子）、次世代につなぐ会（岩村道子）
大井　恭子・理事	文化交流（建部静代）、国際ネットワーク（鈴木千鶴子）
穐田　信子・理事	広報（端本和子）
松﨑　和子・理事	親睦事業（植松ちどり）、収益事業（藤谷文子）、文化事業（鷲見八重子）
遠藤　理枝・理事	22支部
岡本　美和・理事	
加納　孝代・監事	監査
木口　京子・監事	

第14回定時会員総会議事抄録

日　時：2025年5月18日（日）9：30～12：10
場　所：万代シルバーホテル　5階　万代の間
（新潟市中央区万代1－3－30）

1．総会成立確認：牧島悠美子理事より2025年5月18日午前9時30分現在の出席者数64名、議決権行使書提出者297名、出席者合計361名の報告。定款に基づき、正会員561名の過半数以上の出席により総会の成立を確認。

2．開会の辞：長谷川瑞穂会長により開会の挨拶の後、逝去会員7名の冥福を祈って黙祷。

3．議長選出：定款に基づき、長谷川瑞穂会長が議長となる。

4．書記選出：牧島悠美子理事、鈴木裕美会員（新潟支部副支部長）を選出。

5．議事録署名人選出：議長の他、秋光正子理事、鈴木千鶴子理事を選出。

6．議事

第1号議案　貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認に関する件：市川知恵子理事より議案書に基づき、貸借対照表・正味財産増減計算書及び内訳・財務諸表に対する注記について説明。続いて木口京子監事より業務及び会計監査の報告の後、議長が同議案の承認を諮り、異議なく承認可決された。

第2号議案　はじめに市川知恵子理事より一身上の都合により今期で理事を辞任する旨の報告。理事2名選出の件：議案書に基づき牧島理事から提案理由、役員選考委員会の鷲見八重子副委員長から理事候補者推薦についての説明・報告の後、議長が議場で同議案を諮った。議場の会員及び議決権行使書の賛成360名の承認を得て選任可決された。被選任者濱松若葉会員、渡部由紀子会員は就任を承諾した。

報告事項：①2024年度事業報告 ②2024年度公益目的支出計画実施報告、木口京子監事から監査報告 ③2025年度事業計画及び予算について各担当理事から報告があった。

7．支部長・委員長紹介

議事終了後、総会出席の支部長、委員会委員長の紹介があった。

8．全国セミナーについて：2025年10月18日、19日開催予定。支部の参加を呼びかけた。

9．EXPO2025イベント開催について：8月7日スイスパビリオンにおいて本部主催のイベントを開催する予定で準備中。

10．UWAsia 総会について：2026年5月の全国総会にあわせて東京で実施の予定。

11．次期会員総会開催地について：東京で開催決定。本部と東京支部の協働で担当。2026年5月16日、17日、18日。JAUW80周年記念行事も同時に開催予定。

12．ウィメンファースト募金について

13．ミャンマー大地震支援募金について

以上をもって第14回定時会員総会は閉会した。

全国総会「ようこそ新潟へ」開催報告

新潟支部長　**五十嵐由利子**

16年ぶりの新潟での全国総会に全国から多くの会員の皆様にご参加いただき、ありがとうございました。大渕智絵実行委員長（前支部長）を中心に全員参加で準備を進め、皆様をお迎えしました。運営にあたり、旅行代理店の協力を得ること、これまでの日程とは違い、懇親会を2日目の総会終了後にすることなど、全体の企画・運営について、本部の役員の方と前開催地の愛知支部の皆様からのご助言、ご指導を賜り、そして新潟の多くの方からのご協力で開催でき、心より感謝申し上げます。

初めての新潟、久しぶりの新潟という会員の皆様に、新潟のことをたくさん知っていただきたい、楽しんでいただきたいという思いで、エクスカーション、公開講演会、懇親会、研修旅行を計画しました。

1日目の支部長会後のエクスカーションでは、徒歩5分のところにある「會津八一記念館」見学に40名の方に参加いただきました。八一の歌、書についての解説を熱心に聴いてくださっている会員の皆様の姿に感銘を受けました。

2日目は、定時会員総会、公開講演会、全国総会、そして懇親会と盛りだくさんでした。公開講演会については別途報告をお読みください。懇親会では、冒頭、佐渡島の世界遺産登録を記念して佐渡の民謡を楽しんでいただきました。最後の佐渡おけさを全員参加で、うまく踊れないながらも盛り上がり、朝からの会議でお疲れではないかとの懸念は裏切られました。その熱気が残る中、乾杯となり新潟の食材を使った料理を楽しんでいただき、そして支部紹介が始まりました。各支部の熱い思いの紹介はやや時間オーバーでしたが、会員同士の交流が盛んにおこなわれた懇親会でした。懇親会のあと、事前の告知にはなかったホテル近くの小さな映画館の映写室見学に16名の方が参加され、皆さまのパワーに圧倒されました。

3日目のバス研修旅行についても、別途報告をお読みください。

全日程を終えて、多くの支部の皆様と親しく交流でき、多くの情報もいただき、新潟支部の財産になりました。

2026年はJAUWが80周年を迎え、東京での開催が予定されています。皆さまとの再会を楽しみにしております。

講演会講師と新潟支部会員・賛助会員

公開講演「ゆかりの地・新潟でドナルド・キーン先生を想う」

講師：元 BSN 新潟放送プロデューサー　南加乃子さん
ブルボン吉田記念財団評議員

新潟支部　**髙橋令子**

新潟県柏崎市に、日本文学を世界に紹介したドナルド・キーンさんのセンターがあります。その経緯や、キーンさんの業績、メッセージ等について、ドキュメンタリー番組を制作したプロデューサーの南加乃子さんに語っていただきました。

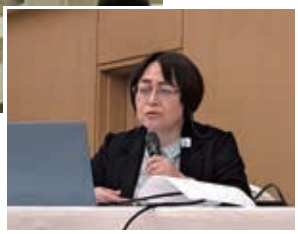
キーンさんが日本文学と初めて出会ったのはコロンビア大学在学中の18歳の頃、1940年にニューヨークの書店で見つけたアーサー・ウェーリ訳「源氏物語」。第二次大戦中に海軍の日本語学校を卒業し、戦後英国のケンブリッジ大学に留学。ここで日本文学を学んだ後、5回の連続講義を行っています。早稲田大学の鳥越文蔵さんは、日本の古典文学の専門家で、大英図書館に眠っていた蔵書の中から「越後國柏崎 弘知法印御伝記」を発見。帰国してそれに関する本を出版しました。「それを舞台で復活上演させたい。」と提案したのはキーンさんでした。その古浄瑠璃本は、江戸初期1685年鱗形屋（大河ドラマ「べらぼう」に出てくる）が版元でした。新潟県長岡市寺泊地区にある西生寺の日本最古の即身仏をもとにして物語を作り浄瑠璃にしたものでした。

2007年の中越沖地震で被害を受けた人々を元気づけようと2009年に柏崎で初演され、キーンさんの熱意で2017年には大英図書館で里帰り公演をしました。舞台の立役者は西橋健さんとキーン誠己さん。西橋健（西橋八郎兵衛）さんは、鳥越さんの早稲田大学での教え子であり元文楽の人形遣いで、佐渡の猿八地区に住み、古浄瑠璃の上演活動をしています。鳥越文蔵文庫もこの地区にあります。新潟市西蒲区出身のキーン誠己さんは、元文楽の三味線弾きで養子となり、2019年にキーンさんの最後を看取りました。

2013年東日本大震災をきっかけに日本国籍を取得したキーンさんは、ニューヨークの住まいを閉鎖することになり、その書籍と書斎を柏崎のブルボン吉田記念財団が引き受けることになったのです。南さんは、キーンさんの2017年のイギリス行に同行して「ドナルド・キーン95歳心の旅」を制作しましたが、その取材のこぼれ話を生き生きと話され、一般参加者を含めて100名余りの聴衆は興味深く耳を傾けました。

最後にキーンさんの言葉が紹介されました。「日本の古典の授業は、面白さよりも難しさの方が勝っている。これでは、日本の古典を読むのは外国人ばかりになりますよ。」大きな課題を頂いた思いです。日本国籍を取得したキーンさんの生き方にも触発されました。ご参加の皆様から、柏崎のキーンセンター、佐渡の鳥越文庫にも行ってみたい、とのご感想をいただきました。また新潟にお越しください。

講演会の様子



講師の南加乃子さん

研修旅行「新潟発日本製　継承と新たな価値づくりをつなぐ旅」

新潟支部　**田代信子**

この度の研修旅行は新潟の「ものづくり」をテーマに新潟市の農家レストラン「そら野テラス」、三条市立大学、燕市の無形文化財鎚起銅器玉川堂の工場（こうば）見学を計画し、40名の御参加を頂きました。そら野テラスは、作る、加工、販売を農家が全て行う農業法人です。朝採りのいちご「越後姫」と新潟のお米で作られた米粉団子を田園の中で試食し、マルシェでの買い物も楽しい時間となりました。次の訪問先の三条市立大学は、地元企業と連携して学際的な研究と技術習得により、4年後に社会で活躍できる人材育成を目標とする工学系単科大学です。理念をアハメド シャハリアル理事長・学長より熱く語って頂きました。質問もたくさんあり、学長は奨学金を受けた時の学びと交流が社会への還元の源であると最後に話していらっしゃいました。「ものづくり」のルーツの和釘の形の校舎は目を引くもので、施設も含め学長自ら携わったそうです。

昼食は燕三条地場センター内の人気レストラン Bit で新潟の食を楽しみました。このレストランは地元食材を十分に使い、内装や食器も地元で製造されたものを使用しています。メインテーブルの上の斬新なシャンデリアは爪切りの枠取りを組み合わせたもので、当日のお魚料理のカトラリーはノーベル賞授賞式の晩餐会と同じものでした。午後は2班に分かれて、隣の物産館でデザイン性の高い台所用品、カトラリー、良く切れる爪切りなどを品定めしながら買い物を楽しみました。最後は200年にわたり伝統技術を継承している鎚起銅器玉川堂に行きました。築100年の工場（こうば）で一枚の銅板からやかんになる工程を鎚で叩く音を聞きながら直で見ることができました。見学の後は人間国宝玉川宣夫氏の壺が飾られている居間で洋梨ル・レクチェのコンポートをいただきながら、番頭山田立さんより鎚起銅器の歴史や運営についてお聞きしました。現在の職人さんの半数が女性で平均年齢は33歳とのこと。若い女性の感性による伝統技術の継承に明るい未来が感じられました。帰りのバスの車窓から新潟平野の早苗の緑が美しく目に映りお天気にも恵まれて良かったと思います。来年の東京での再会を願いながら名残惜しいお別れでしたが、皆様の笑顔が何よりもうれしい一日となりました。御参加頂きありがとうございました。

三条市立大学アハメド シャハリアル理事長・学長と

勉強会「移行法人終了後に向けて」報告

総務担当副会長　**秋光正子**

4年後に移行法人を終了するにあたり、大学女性協会は移行後どのような方向に進むのかを会員の皆様と考える糸口を見つけるため、以下のような“現況を知る会”を催しました。

1. 長谷川瑞穂会長から【趣旨説明】：移行法人終了が迫ってきている中で、まず終了後を見据えて“現況を知る”ことが必要と考え、ここで一緒に学び、考えて参りましょうと呼びかけがありました。

2. 宮下摩維子会員から【「法人」とは－法人のありかたと現状について】：大学女性協会は共通の目的を持った人が集まった非営利法人に属していること、また非営利法人には一般社団法人、公益社団法人などがあり、当協会は2012年に社団法人から一般社団法人に移行、現在は2029年度までの移行期間に入っていることの説明がありました。移行終了後は一般、または公益社団法人を選べるのですが、ここで両法人のメリット・デメリットとして、公益社団法人は税制の優遇を受けられる反面、公益性のある活動が50％以上であることや経理運営上、厳格な法人運営が求められること。片や一般社団法人は自由度の高い活動が許される一方、会員減少などからの資金調達の困難さの問題を抱えることになる、など説明と共にこれからの検討のポイントが示されました。

3. 木口京子監査から【「公益目的支出計画」の考え方と現状について】：公益目的支出計画の考え方について、移行法人となる前は国や自治体から公益目的の多額の助成金を受けており、2012年の時点で1億9千万円を超える公益目的財産を保有していたこと。現法律下の社団法人となるためにはこれに相当する金額を全て計画的に公益の目的のために支出する必要があり、17年間でこれを全うする計画を内閣府に届け出ていること。現状ではほぼ計画通りに計画的支出が実施できているとの説明がありました。2028年度末、公益目的財産がゼロになった時点で当協会にその他の資金がどれだけ残るかは、私たちの努力にも大きくかかわっており、皆様と考えていきたいと述べられました。

4. 今野美智子奨学金・研究奨励担当理事から【JAUW 奨学事業について】：奨学事業は当協会が発足した時から続いている非常に大事な事業になっていること。今行われている奨学事業については、国内（一般及び社会福祉）奨学金と国際奨学金は公益目的財産から支出し、安井医学奨学金、守田科学研究奨励金、海外研修助成金は目的を指定された寄付金で賄っていることの説明がありました。移行法人終了後の資産状況で国内奨学金、国際奨学金が続けられるかはこれから検討が必要であり、寄付金を募る必要があると指摘されました。また、統計資料として戦後からの女子の大学教育事情の変化を示し、今後の奨学制度の在り方を考える一助として見て欲しいと結ばれました。

5. 中村久瑠美元会長から【今こそ、移行後の大学女性協会をともに考えよう！】：木口監事が述べられた公益目的支出の考え方のように、受けたお金は法人として溜め込まないことが大事だと分かってきたこと。今後の資金作りやどのような財産を持つかは皆様と新たに勉強が必要な事。活動目的では、奨学金事業、セミナー開催・調査研究、国際平和と国際交流と、継続したい重要な活動があるが、法人として一般が良いか公益が良いかという検討の中で活動の選別をしていく必要があることを述べられました。さらに移行後の活動の在り方を支部ごとにワークショップなどを開き、会員の希望や考え方を出し合う機会を設けて欲しいとこれからの指針を示されました。

その後の意見交換では、移行法人始動時と終了時を比べると、会員数、公益性を持つ活動、事業・運営に使える資金全てが縮小して規模が違ってきている。将来新しい形の会にすることは考えていますか？　地方の支部のあり方について考えて欲しい、などの意見が出されました。木口監事から本部と支部のあり方については国内奨学金も調査研究の提言も協働して進めることを目指しており、移行後の活動も皆様と考えていきたいと述べられました。今野理事からは若い会員を増やすことが大事と提言がありました。

この「勉強会」終了後、会員の皆様からわかりやすく話してもらえてとても良かった、との感想を多数頂きました。難しいテーマでしたが多くの会員の方々が心に留め耳を傾けてくださったことを実感しました。大学女性協会が希望をもって発展していくことを願っています。

支部長会2025

支部担当理事　**岡本美和**

5月17日（土）午後、支部長17名の出席のもと支部長会が開催されました。

会長挨拶、第14回定時会員総会の議題についてコンパクトに説明があった後、本部から、全国セミナー、EXPO2025でのイベント開催について、その他支部長の業務に必要なことにポイントを絞ってお知らせがありました。情報密度の高い時間となりました。

後半は、支部の課題についての協議を行いました。支部の規模別にグループを作り、自由に意見交換を行いました。内容の一部を紹介します。

- 講演会やコンサート等に一般の方も誘っているが、なかなか会員にはなってもらえない。
- 高齢の方の参加が難しくなっているが、ぜひ当時のお話も聞かせてほしい。
- 他団体と交流をしてつながりを持っているが、たくさんの団体の中での存在感がうすい。
- 小さな支部では、興味のあることを推進でき、親睦もはかりやすいが、本部のテーマに合わせようとするとその消化等で大変になることが弱み。
- ICT に関して、予算が少なくなっていく中で、メールなどお金がかからない手段を使うことは重要である。勉強会ができるとよい。郵便、LINE、FAX などいろいろな方法を選ぶ必要がある。　など。

例年支部長会で十分な協議ができないという声があり、少しでも話し合いが深まるように、今回はグループ協議の形に変えてみました。しかし、話題は尽きずこれでも時間が足りないと思うほどでした。支部長の皆様の積極的な参加により、実りある支部長会となりましたことに感謝申し上げます。

第27回大学女性協会 守田科学研究奨励賞授賞式

科学研究奨励委員会委員長　**菅原　洋子**

第27回守田科学研究奨励賞授賞式が6月8日にアルカディア市ヶ谷を会場として執り行われた。今回の授賞者は、国立遺伝学研究所ゲノム・進化研究系助教の川口茜さん（研究分野：発生・再生エピゲノム動態生物学）と新潟大学大学院自然科学研究科助教の小山翔子さん（研究分野：宇宙物理学）のお二人である。

川口さんは2009年に長浜バイオ大学を卒業後、奈良先端科学技術大学院大学へ進学され、2014年に博士（バイオサイエンス）を取得された。ドレスデン再生治療センター博士研究員、オーストリア分子病理研究所博士研究員を経て、2022年7月に現職に着任された。受賞研究課題は「三次元組織の再生能力を可能にするクロマチン制御機構の解明と器官再生研究への応用」である。

小山さんは2008年に早稲田大学理工学部を卒業後、東京大学大学院 理学系研究科天文学専攻に進学し、2013年に博士（理学）を取得された。ドイツ・マックスプランク電波天文学研究所の博士研究員、台湾中央研究院天文及天文物理研究所の博士研究員を経て、2021年4月に現職に着任された。受賞研究課題は「国際ミリ波観測網で切り拓く巨大ブラックホール撮影の本質的貢献」である。

研究内容の詳細はお二人の記事をご参照いただきたい。授賞式に引き続いて行われた受賞講演で、川口さんはご自身の研究歴を紹介された後、再生について専門外の参加者にもわかりやすく丁寧な説明をされ、最後に、今後の研究展開について話された。小山さんは、ブラックホール及びブラックホールシャドウとはどのようなものであり、どのようにして観測し、どのような意義があるかについて、シミュレーション動画なども活用して講演された。

昨年に続き若手女性科学者海外研修助成事業報告として、第2回助成授与者の庄野真由さんと鈴木華実さんに報告をしていただいた。お二人の報告記事をご参照いただきたい。

受賞記念パーティーでは川口さんの推薦者の国立遺伝学研究所・前所長花岡文雄様、小山さんの推薦者国立天文台水沢 VLBI 観測所・所長本間希樹様からスピーチをいただいた。また、新潟支部長の五十嵐由利子様は新潟大学副学長在職中に女性研究者支援体制の立ち上げに尽力されており、この事業と小山さんとの関係についてのお話を伺った。なお、小山さんのもうお一人の推薦者である国立天文台名誉教授・タイ国立天文研究所教授小林秀行様からは Zoom にてメッセージをいただいた。

第28回 大学女性協会守田科学研究奨励賞
受賞候補者募集要項

趣　　旨：本賞は、化学教育者･故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として、1998年に設けられたものです。

対　　象：自然科学分野において、優れた研究成果をあげており、科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（2026年4月1日現在）の女性科学者を対象とします*。
*出産・育児・介護等による休業期間等がある場合はこの期間を年齢から除外します。対象者は根拠を明記してください。

授賞件数：年2件以内。賞状および副賞50万円を贈呈します。

提出書類　応募書類はメール添付で提出していただきます。

1. 研究題目とその概要（A4判1頁～1.5頁程度）、今後の展望および抱負（A4判0.5頁程度）（全体で A4判2頁以内）
2. 履歴書
   記載項目：氏名（ふりがな）、（英字表記）、国籍、生年月日（年齢）、現住所、電話、所属機関（住所、電話）･職名、e-mail、専門分野、学位、学歴（高校卒から）、職歴
3. 研究業績リスト（主要論文に〇を付記）
   記載項目：原著論文（査読付）、原著論文（査読なし）、総説･その他、著書、受賞歴、学会発表（国際学会、国内学会（招待のみ））、競争的資金
4. 主要論文5編以内（ファイル名に研究業績リストの通し番号を入れて下さい）
5. 推薦状（推薦者から直接別メールで送付）

【送付先】morita_prize@jauw.org

【件名（subject）】「第28回 大学女性協会守田科学研究奨励賞応募書類」

*推薦状以外（1，2，3，4）を各々pdf 化して1つのフォルダーに収めzip ファイルとする。
フォルダー名：応募者名
zip ファイルの容量が5MB 以下：メールに添付で送付、
zip ファイルの容量が5MB を超える場合：ファイル便で送付
*推薦状：推薦者から直接 morita_prize@jauw.org 宛に送付
件名（subject）:「第28回 大学女性協会守田科学研究奨励賞応募（推薦状）」
ファイル名：被推薦者名

上記の提出方法について、不都合がある方はメールにてお問い合わせください。

応募締切日：2025年11月17日（月）（必着）

選考結果の通知：2026年3月末

書類送付先・問合先　e-mail：morita_prize@jauw.org

一般社団法人　大学女性協会
〒160-0017　東京都新宿区左門町11番地6 パトリシア信濃町テラス101
Tel：03-3358-2882　Fax：03-3358-2889
https://www.jauw.org/scholarship-information/moritakagaku/

再生能力を司る エピゲノム制御機構の解明

国立遺伝学研究所ゲノム・進化研究系
助教
川口　茜（かわぐち　あかね）

イモリのような高い再生能力を有する生物は、失った器官を元通りに過不足なく再生させます。その際、再生中の細胞はどのように自らの位置情報を「記憶」し、正確な再生を開始するのでしょうか。この問いは、発生・再生生物学において未解明の課題です。

我々はこの問いに対し、エピゲノム・クロマチン制御機構（DNA とヒストンタンパク質が結合した複合体の修飾による遺伝子発現制御）が細胞の位置記憶を担うという仮説を提唱し、その分子基盤の解明に取り組みました。まず、全長32Gb（32ギガ塩基対）にも及ぶアホロートル（メキシコサンショウウオ）の巨大ゲノムを、Hi-C（High-throughput chromosome conformation capture）技術により染色体スケールでアセンブリし、免疫遺伝子に重複があることや転移因子の拡散によってゲノムが巨大化したこと、染色体高次構造の特徴に哺乳類との共通性があることなどを明らかにしました。さらに、成体四肢において部位特異的なエピゲノム状態が保持されていることや、再生に伴って再生特異的な機能性ゲノム領域が活性化されることを見出しました。この再生特異的機能性ゲノム領域の活性化には JUN、FOS、MAF、RUNX など高度に保存された転写因子群が関与していました。これらは他の再生可能な生物種において共通して活性化されることから「再生とは保存された制御ネットワークを文脈特異的に再利用する現象である」ということが示唆されました。

現在、私はこれらの転写因子群ががん悪性化にも関与する点に着目し、発生・再生・腫瘍化を一連の連続的過程として捉えるエピゲノム制御機構の解析を進めています。また、鳥類や軟骨魚類を含む比較ゲノム解析を通じて、転移因子が宿主の遺伝子制御機構に取り込まれていく進化的プロセスの解明にも挑戦しています。

最後に、このたびは第27回守田科学研究奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。選考委員の先生方および関係者の皆様に深く御礼申し上げます。今後も、再生と発生の根本原理を探究し、学術の進展に寄与できるよう尽力してまいります。

国際ミリ波観測網で切り拓く 巨大ブラックホール撮影の本質的貢献

新潟大学大学院自然科学研究科新潟大学創生学部
助教
小山　翔子（こやま　しょうこ）

銀河の中心に存在する巨大ブラックホールとその周辺から光速に近い速度で噴出するジェットは、物理学の究極の実験場です。一般相対性理論によりブラックホールは理論的に予言され、約100年にわたり証拠が集められてきましたが、その重力は極めて強く、光さえ脱出できないため直接観測することはできません。しかし、背景光との対比によって影（シャドウ）として可視化できる可能性は40年以上前から提案されてきました。ただし、これまでの観測装置では解像度が不足し、シャドウを視覚的に撮影するのは困難でした。

私は、国際プロジェクト「イベント・ホライズン・テレスコープ（EHT: Event Horizon Telescope）」に参加し、史上初となるブラックホールシャドウの撮影に中核的な貢献を果たしました。EHTは、地球規模の観測網を構築することで、月面上のゴルフボールを見分けられるほど高い解像度を実現して撮影に挑みました。おとめ座銀河団にある銀河 M87の中心ブラックホールの初撮影では、画像化作業班内の1チームを率いて初期画像を作成しました。この観測において、CLEAN という標準的な方法でも画像中心部に黒い影を検出できたことで、ブラックホールシャドウの初撮影はさらに確固たるものとなりました。また、一般相対論的効果を直接画像として捉えたことでブラックホール質量の推定も可能となりました。さらに、翌年の観測でもEHTは同天体の撮影に成功し、ブラックホールの存在を裏付けました。同時期に行われた国際ミリ波観測網による独立な観測では、ブラックホールに落ち込むガスがつくる降着円盤の初撮影に成功しました。観測網にグリーンランド望遠鏡が加わったことで画質が大幅に向上し、周囲のガスがどのように動くのかわかってきました。私はこの望遠鏡に搭載する装置の性能試験や試験観測にも貢献しました。

現在は、EHTの高い解像度を活かしてガンマ線放射天体の撮影に取り組んでいます。また、2030年代にミリ波望遠鏡を宇宙空間に打ち上げる BHEX プロジェクトに参加し、ブラックホール周辺のより鮮明な画像を得ることで、一般相対性理論の検証やガンマ線放射機構の解明に挑戦していきます。

最後に、大学女性協会関係者の皆様に心より御礼申し上げます。御指導くださった先生方、共同研究者の皆様、先輩、後輩、同僚、友人に深く感謝申し上げます。この受賞に恥じぬよう、今後も一層研究に励んでまいります。

報告：CSW69@ニューヨーク国連本部　2025年3月

CSW69参加、NGO の立場で襟を正す

国際ネットワーク委員長　鈴木千鶴子

CSW 参加のため2週間滞在した6年ぶりのニューヨーク。国連構内の水仙の花が咲き揃うなど温暖な気候以外は変わらぬ活気と自由な雰囲気に、日本の日常と異なることだらけにも拘わらず、なぜか懐かしさを覚える。今年のCSWの包括テーマは「北京＋30」。節目の年であることから参加登録者数9,000人とも報じられるなどの規模の大きさに加え、イベントテーマの多彩さに、時として何処に行くべきか迷子の気分も味わう。

日本の3つの女性 NGO（国連 NGO 国内女性委員会・JAWW・国際婦人年連絡会：JAUW は全ての団体会員）が2009年より国連日本政府代表部と共催で開催している CSW でのサイドイベント。17回目の今年は「『女性・平和・安全保障』を世界に訴えるのにNGOが出来ることは何か？」に取り組みました。持続可能な平和を実現するには市民社会（NGO）の協力が不可欠であることは論を俟ちません。一方、今世界各地で進行中の紛争・戦争は、家父長制と同根の「力による支配の論理」が優先した結果です。その対極に位置する殊に女性とユースは、現状を打破し変革を担うことができるはずです、また責任があると自覚できた催しでした。

その NGO（殊に現場で支援活動を行う団体）にとって、今年に入り顕著な各国政府の援助削減は大きな障壁となっています。それぞれのNGOは逆境の中でこそ果たすべき使命を焦点化し、他の団体、政府とも協力の方法を模索し「北京＋30」後の歩みに踏み出さなければなりません。

社会的養護とジェンダー平等

田中　優希　東洋大学大学院修士課程

第69回国連女性の地位委員会に若手派遣者として参加させていただき、ジェンダー平等の文脈における高等教育へのアクセスや、児童福祉との関連性について、国際的な議論の場で新たに学ぶことができました。特に自身の研究テーマである社会的養護を経験した若者の高等教育と、女性や性的マイノリティが直面する高等教育における課題の共通点に気づき、研究や実践の新たな視点を得ることができました。今回得た学びを活かし、ジェンダー視点を取り入れた社会的養護や子どもにかかわる研究・実践を行うことで、あらゆる分野におけるジェンダー平等の推進に貢献したいと考えています。

CSW69に見る若者参画の現在地

櫻井　彩乃
一般社団法人 GENCOURAGE 代表理事

大学女性協会のご支援を通じ、学生時代にCSWに参加した経験は、政策に関わる私の原点となりました。今回は支える側として、ジェンカレの若者たちと再び CSW に参加しました。国際的に若者の参画の重要性が語られる一方、Youth Dialogueでは、お飾り参画への懸念を各国の若者が提起していたことが印象的でした。若者を「未来をつくる主体」として、その声が確実に反映される社会の構築が必要です。

世界ではジェンダー平等へのプッシュバックが強まっており、日本にもその波が確実に押し寄せつつあります。今こそ、世代や立場をこえて連携し、声を上げ、希望の火を絶やさず、変化を次世代へ手渡していきたいと思います。

当事者の声を聞き、その声を戦略的に反映させるとは

佐々木崚真
ジェンカレ1期生

この度は CSW69という貴重な場に参加させていただき本当にありがとうございます。今回の参加を通して、「若者（特にLGBTQIA＋）のメンタルヘルス」について、現状や各国の取り組みについて貴重な知見を得ました。会議では、当事者が安心して自身のストーリーを話せる場を作り、そこで得られた声を政策に反映する重要性が強調されていました。また、各国の若者が自らの声を政策に反映させるために戦略的に行動している姿に圧倒されました。

現在私は、引き続き関心ある団体への参加を継続し、第6次男女共同参画基本計画に向けたアドボカシーにも挑戦しています。これからも、CSWへの参加を生かして更なる多角的な活動を進めていきたいと思います。

「世界の変化」と「繋がりの重要性」

高橋真愛美
ジェンカレ2期生　高校3年生

CSW を経て私が感じたものの一つ目は「世界の変化」です。特に、アメリカを含む世界各国のバックラッシュの深刻さはCSWブリーフィングを含む多くのイベントで話題に上がっていました。二つ目は「繋がりの重要性」です。CSWには様々な言語、年代、出身の人たちが集まります。しかし、現在起こっているバックラッシュに抵抗するためにもそれらを超えた繋がりを持つことの重要性が繰り返されており、ユース同士でも仲の良さそうな雰囲気で「この人たちと共に頑張りたい」と思いました。

今後は、じきに来るであろう変化に向けて日本でも繋がりを深め、強化することに貢献していきたいです。

応援してくださった皆様に心から感謝いたします。

2024年度の国際奨学生報告会

国際奨学委員
加納孝代

2025年3月7日、東京文京区の今井館聖書講堂で国際奨学生の留学成果発表会を開催しました。2020年から3年間コロナ禍で中断、2023年に再開した本事業の趣旨は、日本の大学／研究所に半年程度滞在する外国人若手（45歳未満）女性研究者を支援し、そのキャリアアップに資するとともに、その国と日本の友好関係の進展をはかるものです。2023年度の奨学生はコロンビアのモントーヤさんとモロッコのセフラウイさんで、『会報』Vol.282に報告会の模様を掲載しました。

2024年度はイランからホダ・アラヴィザッドさんと、ミャンマーからイン・ミン・ターントさんを迎えました。ホダさんは東京大学大学院で、高分子ナノ粒子ワクチンによるがんの治療法を、ターントさんは北海道大学大学院で、ベトナム・カンボジア・ミャンマー3か国を流れるメコン川流域の土地利用と地球環境の関係を研究しました。

左から　ターントさん、加納委員、ホダさん

日本滞在の最終段階にあたる成果発表会では、多くのスライドを使って分かり易く説明されたものの、用語は英語、内容は高度に専門的なので、正直ちょっと大変でしたが、国際奨学委員数名も逐次通訳に奮闘、研究概要は理解できました。

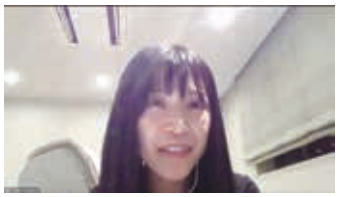
各自の母国の女児や女子たちの教育事情についても紹介してもらいました。イランでは高等教育の最先端部分が極めて進んでいること、ミャンマーでは非常に困難な政治状況下、地道な努力で初等・中等の女子教育が支えられていることを知りました。二人ともそれぞれが研究生活を送った東大と北大の研究室で如何に温かな人間関係が築かれたかを語ってくれました。

両名は3月31日に帰国しましたが、ご存じのように3月28日にはミャンマーで大地震が勃発、帰国後ターントさんからは彼女自身と家族は無事、しかし周りでは多大の被害が出ている旨の報告が届いています。大学女性協会では加納が個人的に関わりのあるミャンマー地震被災者支援緊急募金に協力して頂きました。お礼を申し上げます。

前列右端　ホダさんの指導教官カブラル教授
後列左端　同研究室秘書の小山さん

「次世代につなぐ会」月例会 #9報告

「次世代につなぐ会」委員長
岩村道子



「次世代につなぐ会」月例会#9を3月12日（水）にオンラインで開催しました。今回は笹澤有紀子会員（東京支部、順天堂大学大学院准教授、2023年度守田科学研究賞奨励賞受賞者）に、「パーキンソン病の治療薬開発を目指して」という題目でお話しいただきました。

パーキンソン病とは、脳の中のドパミン神経細胞が次第に失われ、ドパミンが不足することによって起こる神経変性疾患です。主な症状として、安静時振戦、筋強剛（筋肉のこわばり）、動作緩慢などの運動症状や便秘、嗅覚障害、うつなどの非運動症が挙げられます。ドパミンが枯渇することが原因であるため、現在はドパミン補充療法が中心ですが、笹澤さんはパーキンソン病の原因たんぱく質を除去する新規治療薬の開発を目指して研究を展開されています。お話の後半では、任期付きポジションの女性研究者のライフイベントについて理解が得られる環境、制度や、女性活躍を促進するために男性の育児休暇に寛容な社会になる必要性をご自身の経験を交えて話されました。

笹澤さんの話のあと、パーキンソン病患者が身近におられる参加者から、この病気が現状の投薬では完治が望めないたいへんつらく苦しい病であることを伺いました。笹澤さんの目指される新しいタイプの治療薬の完成が待たれます。女性研究者の処遇については、京大や東北大での状況も在籍する研究者から報告いただきました。大企業でキャリアを積まれたシニアからは、民間に比べ大学は女性には働きやすい場所と思っていたが大学のほうが閉鎖性は高いのではと感じたとのご意見もありました。参加者は19名と少なかったものの笹澤さんの話のあと、議論のつきない月例会でした。

「次世代につなぐ会」では、2025年度のイベントを、9月27日（土）に東京･京都の2会場およびオンラインで開催いたします。今回は、頻発する自然災害をテーマとして議論を展開しつつ次世代とシニアとの交流を深めてゆきたいと企画を進めています。ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

第2回若手女性科学者海外研修助成事業報告

同志社大学大学院理工学研究科
日本学術振興会特別研究員
庄野 真由（しょうの まゆ）

私は大学女性協会の若手女性科学者海外研修助成を受け、パリ高等師範学校（Ecole Normale Supérieure（ENS））の合成生物学や生物工学分野で著名な Baigl 研究室に2024年9月から約3ケ月滞在させていただきました。研修では、Baigl 研で長年研究されている DNA ナノテクノロジーについて実験手法を学ばせていただき、その技術に、自身が進めてきた水／水ミクロ相分離系の細胞モデルを組み合わせた研究を推進しました。

Baigl研究室では、研究以外の場面でも日常的に密なコミュニケーションが取られており、そのような環境が、教員や同僚と気軽に議論を交わし、互いに切磋琢磨しながら研究を進める土台となっていると感じました。この経験を通じて、今後は日常的なコミュニケーションの重要性を意識し、研究の更なる発展に繋げていきたいと考えています。また、パリ日本人研究者会にも参加させていただき、フランスで活躍されている日本人研究者の方々と交流を深める貴重な機会を得ることができました。

今回の海外研修を通じてこのような貴重な経験をさせていただけたことに、心より感謝申し上げます。

名古屋大学大学院生命農学研究科
客員研究員
鈴木 華実（すずき はなみ）

私は、アメリカに2024年7月から1ケ月半滞在し、3つのことを通して、生物間相互作用の研究を行いました。一つ目は、ユタ州立大学の Daniel MacNulty 教授らのグループと共にイエローストーン国立公園での2週間のフィールド調査を行ったことです。これは、植食者（エルクなど）の捕食者（オオカミ）の再導入による植物（アスペン）への影響を調査するものです。二つ目として、ユタ州立大学に移動して同教授の研究室で3週間、野外調査結果のデータ解析手法を習得しました。三つ目は、第16回Biennial Scientific Conference on the Greater Yellowstone Ecosystemに参加し、生態学研究の様々なアプローチ方法や野生生物と人間社会との関係性などを学びました。

これらを通し、今後自分自身が生態学者としてどのようなビジョンを持って研究活動を遂行していきたいのか、どのように社会に貢献するような研究に発展させていくのかを見つめ直すことに繋がりました。

このような機会を与えてくださった大学女性協会若手女性科学者海外研修助成事業に感謝いたします。

調査地の Yellowstone National Park にて

社会福祉奨学生　油田優衣さん NHK 出演

社会福祉委員長　遠藤理枝

2023年度社会福祉奨学生の油田優衣（ゆだ ゆい）さんが、4月から始まったNHKETV「Toi-Toi」に出演されています。この番組は、心の奥底に抱いてきた問いを多様な視点から自由に対話しながら違いを認め合い、ともに生きる世の中を実現するためのヒントを探求する番組です。油田さんは身体機能が徐々に低下する進行性の難病を抱え、全生活に介助を必要とする日常の中では、油田さんの「ふつう」と社会の「ふつう」がしばしば不一致。「あなたのからだはふつう？」という問いを立て、いろいろな体が当たり前になるには？を探求。普通とは？多様性とは？様々に考えさせられる番組です。

～敬愛する丸山庸子元会長を偲んで～

元会長　阿部幸子

私は、丸山庸子会長のときに JAUW に入会しましたので、丸山様とは比較的短いお付き合いでしたが、後輩ということもあり大変親しくしていただいた一人です。2006年に役員選考委員長の丸山様からお声がかかり副会長に就任しましたが、その年に公益法人改革が始まり、特別委員会には丸山様にも加わっていただきました。丸山様、鷲見副会長が私宅に集まり、丸山様のご助言を得ながら、実施事業の骨子となる4つの事業名および事業概要の原案を作成したあの夏の一日は、今も忘れることができません。

丸山様は、1984年から4期にわたり副会長を、96から98年には会長を務められ、その間に行われたセミナーでは、開発教育、女性の意思決定や職業選択などをテーマに掲げ、女性の自立を目指す問題に取り組まれています。また守田科学研究奨励賞の設立に尽力され、「大学婦人協会五十年史」を編纂されるなど、多大なご貢献を頂きました。国際人権規約実施促進連絡会議を支え、小金井市婦人問題会議議長として市の男女平等条例作成に関わられるなど多面にわたるご活躍により、2006年には「文部科学省社会教育功労賞」を受賞され、私ども当時の三役も喜びを共に致しました。

丸山庸子様は、必要とされる場で、その活動に積極的に関わられ、まさにリーダーシップを発揮され、後進への道を切り拓いてこられました。97年のご生涯を閉じられた今、心よりの感謝を込めてご冥福をお祈り申し上げます。

支部だより

支部活動を活発にするために282号よりご意見、ご提案をお願いしています。
各支部の取り組みの参考にしていただければと思います。（広報委員会）

継続企画「郷土を知ろう@福井」

福井支部長　東野香里

会員数（＝実働人数）6人の小さな福井支部は、グループLINEで連絡を取り合い、ワイワイ楽しく活動しています。

当支部で大切に続けている活動のひとつが「郷土を知ろう」と名付けた、県内の歴史や文化に触れる日帰り旅です。皆で訪問地を決めるのですが、最新情報だけでなく、過去に訪れた時の感想や思い出なども含めて、いろいろと情報交換。企画としては年に1回ですが、県内各地の話題で盛り上がること自体も、郷土を知り福井の良さを感じていく時間になっているように思います。昨年はポーランド孤児などで有名な「人道の港 敦賀ムゼウム」周辺を堪能し、今年は勝山市（「県立恐竜博物館」のある街です）で計画進行中です。

この他、女児に学費を支援する「教育里親」活動、ミニ講座＆お話し会、ランチを囲んでの親睦会等を開催しています。年齢を重ねても（重ねているからこそ？）新たな刺激を求めつつ、活動を続けていきたいと思っています。

Q：現在にもまして活動を活発にするにはどうすればいいですか？

A：会員増は重要。ただ、若い人たちと繋がることへのハードルが高くなってしまったのが現状。堅苦しく感じさせない、暮らしと直結していて興味深い、楽しそうと思ってもらえるといいのかな。他団体とのコラボ企画で複数人がまとめて入会に、なんてうまくはいかないでしょうか…。

人道の港　敦賀ムゼウムにて

昨年度の主な支部活動

仙台支部長　相澤富美江

仙台支部は現在28名で活動しています。昨年度の主な活動を紹介いたします。9月、12年ぶりで日帰り研修旅行を行いました。山形県高畠町にお住まいの会員のご案内で同町をおとずれ、豊かな自然から採れた食材を使った食事や葡萄を楽しみ、地元で活躍する女性のお話を伺いました。10月、演劇主催のお仕事をされている会員のご協力を得て、「フラガール‘24」の演劇鑑賞会を行いました。笑いあり涙ありの迫力の舞台でした。1月には「スウェーデンの優しい学校―平等で寛容な社会を担う市民を育む―」というタイトルで、スウェーデンの義務教育における共生の教育のプログラムについての講演会を開きました。とても興味深いお話で、講師の先生のお話も尽きず、参加者からの質問も多く、時間が足りない程でした。2月の新年会は最も会員の集まる楽しい会です。今回は国内奨学生の応募者の学生さんをお招きし、研究のフレッシュなお話を伺いました。

農家レストランのぶどう棚（高畠町）

新年会～国内奨学生応募者を囲んで～

Q：現在にもまして活動を活発にするにはどうしたらいいですか？

A：それぞれの会員の得意なことや分野を生かし、なるべく出かけやすい場所・日程で、事業を行っていければと思っています。顔を合わせて楽しくお話しができることが何よりです。仙台市の男女共同参画推進センターが街の中心部にあり、交通の便も良く、会場の予約もし易く、助かっています。

＊ みなさまの支部で紹介をなさりたい先輩・同輩、あるいは歴史や活動などを、是非、広報委員会までお知らせください

2025年度全国セミナーの開催について

テーマ「ウェルビーイングと環境～くらしの視点から～」

日　　時：2025年10月18日（土）13：00～17：00
19日（日）　9：30～12：00
会　　場：エッサム神田ホール1号館301大会議室
開催方法：対面とオンライン（Zoom）の併用
参 加 費：1,000円（対面・Zoom とも）、学生無料
申込方法：Google フォーム、E-mail、Fax 等で受付
E-mail：jauw@jauw.org
申込期間：2025年8月20日（水）～10月15日（水）
内　　容：地球温暖化･気候変動により大きな影響を受けている食料や生息基盤など私たちの生活の中の問題と対応策について、2つの講演と会員による5領域の課題報告で、希望ある未来へ向けた行動指針を得ることを目指します。
※詳細は同封の案内チラシをご覧ください。

(一社)大学女性協会80周年記念募金パトリシア寄付者ご芳名

期間：2025年2月1日～2025年6月30日
寄付者人数：9名
寄付金額：170,000円
上記期間中の寄付者ご芳名（敬称略・支部別50音順）
（東京）佐伯邦子、高坪冨美子、村木晴子　**（神奈川）**穐田信子
（金沢）笠間昭子　**（京都）**佐賀千恵美　**（岡山）**木口京子
（福岡）和栗方子　**（賛助）**高橋政春
全体期間：2021年4月30日～2025年6月30日
寄付者延人数：341名
寄付総額：4,477,600円

寄付金の振込先口座
銀行：ゆうちょ銀行
名義：一般社団法人　大学女性協会
① 払込取扱票（郵便振替）で行う場合
口座記号及び口座番号：00130-0-587701
※パトリシア募金専用の払込取扱票をお持ちの場合は、そのまま使用可能です。
② 他行から振込の場合
支店名：〇一九店
口座種類及び口座番号：当座 587701
※ゆうちょ銀行口座から振り込まれる場合も同じです。

理事会から

- 第15回定時会員総会の日時：2026年5月17日（日）場所：KKR ホテル東京、支部長会は前日の16日（土）、懇親会は17日17時～、研修旅行は18日（月）の予定です。
- 2025年8月7日関西万博で「政治における女性たち」企画、9月11日からはザンビアで GWI 総会が開幕。来春は東京で UWAsia 総会を開催。国際理解と交流が進みますように。
- 国内奨学生募集方法の切替えに尽力された国内奨学・社会福祉委員会、協力賜った支部長各位に敬意を表します。
- 事務所の夏季休業期間：8月8日（金）～ 8月18日（月）

2025年度 国内奨学生募集要項　抄

一般社団法人 大学女性協会　2025年度国内奨学生募集

今年度も大学女性協会国内奨学金の募集を以下のように行います。

Ⅰ　応　募　資　格
一 般 奨 学 生　大学院に在籍する女子学生で、学業･研究・人物ともに優れた者。
社会福祉奨学生　大学の学部に在籍一年以上または大学院に在籍する女子学生で、身体に障害があり、かつ学業･研究･人物ともに優れた者。身体障害者手帳の交付を受けていること。
安井医学奨学生　大学院に在籍する女子学生で、医学･歯学･薬学を専攻し、かつ学業・研究・人物ともに優れた者。

Ⅱ　支給額および募集人数
一 般 奨 学 生　大学院生　30万円　5名
社会福祉奨学生　学 部 生　20万円
大学院生　30万円　学部生、大学院生合わせて2名
安井医学奨学生　大学院生　30万円　1名
＊備考　• 応募状況により奨学生人数を変更することがある。
• 奨学金は1回限りである。

Ⅲ　応募方法および締切り
• 応募者は、応募書類を在籍大学へ提出する。
• 大学は2025年8月26日（火）（必着）までに、当協会支部が設置されている都道府県の大学は当該支部に、支部が設置されていない県の大学は本協会本部に、応募書類を一括して提出すること

なお、応募書類その他の詳細につきましては次の URL または QR コードをご参照ください。

募集要項URL: https://qr.paps.jp/KjJId
募集要項 QR コード

応募書類URL: https://www.jauw.org/scholarship-information/

新入会員　理事会承認　2025年3月～6月

東京支部 伊藤　真理　東京支部 近藤　美欧　東京支部 白岩　葉子
奈良支部 河合　摩香　大阪支部 平木佳代子　神戸支部 川津　真理
大分支部 石丸喜久子　大分支部 織部　眞理　大分支部 武本真由美

一般社団法人　大学女性協会
〒160－0017　東京都新宿区左門町11番地6 パトリシア信濃町テラス101
電　話　03－3358－2882　　ＦＡＸ　03－3358－2889
https://www.jauw.org　　E-mail：jauw@jauw.org
発行人　長谷川　瑞穂　　編集責任者　端本　和子
発行日　2025年7月22日